

経営比較分析表（令和4年度決算）

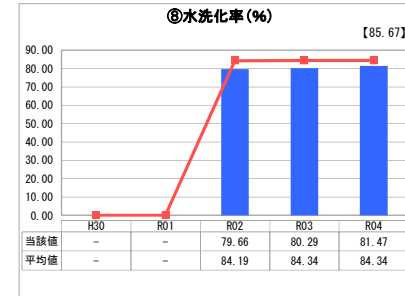
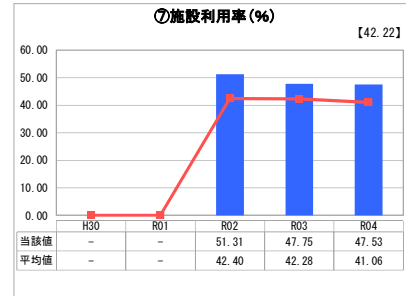
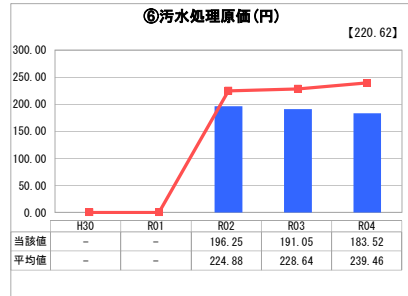
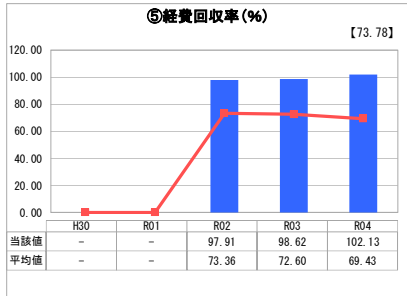
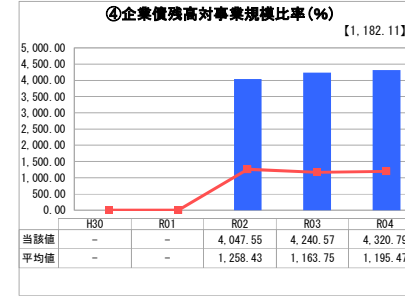
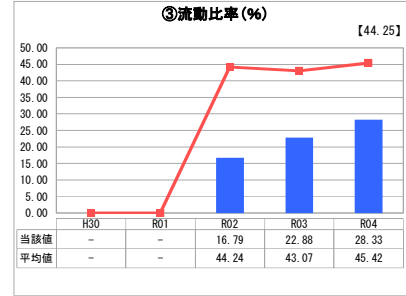
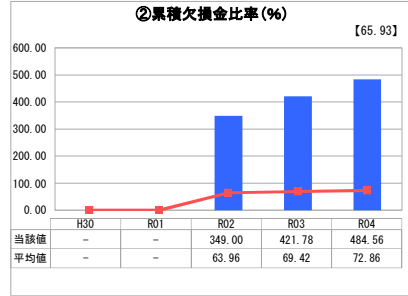
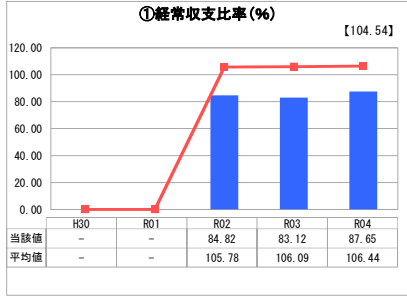
佐賀県 唐津市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	39.61	11.86	98.35	3,300

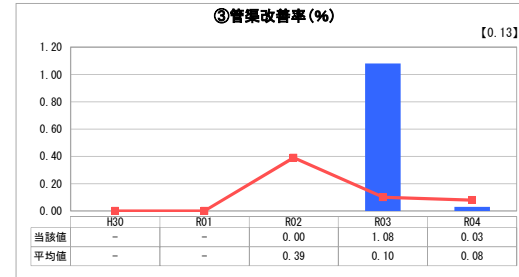
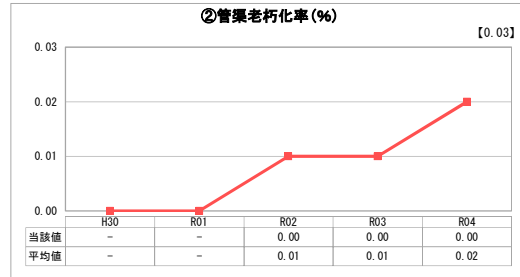
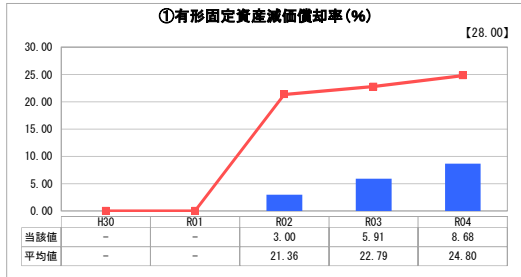
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
116,972	487.60	239.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
13,792	5.61	2,458.47

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率について、企業債元金償還金に充当した他会計補助金の収益化を始めたことや、企業債利子償還額の減少により、令和3年度より若干数値は改善したが、依然として100%を下回っている。
- ② 累積欠損比率について、当年度の損失は令和3年度に比べ減少しているが、累積欠損金を解消できていないため、悪化している。
- ③ 流動比率について、企業債償還金の増等により負債が増加したが、現金が増加したため、多少改善している。
- ④ 企業債残高対事業規模比率について、企業債残高が減少したが、浸水対策に関する事業量の減に伴う営業収益の減少割合が高かったため、令和3年度に比べ増加となった。
- ⑤ 経費回収率について、料金収入は減少したものの、企業債償還利子をはじめとする汚水処理費が減少したため一つの基準となる100%を超える数値となった。
- ⑥ 汚水処理減価について、有収水量は減少したが、企業債償還利子をはじめとする汚水処理費が減少したため令和3年度に比べてマイナスとなっている。
- ⑦ 施設利用率について、晴天時平均処理水量が減少したため若干のマイナスとなっているが令和3年度と比較してほぼ同じ値となっている。
- ⑧ 水洗化率について、水洗便所設置済及び処理区域内人口ともに減少となったが、処理区域内人口の減少が大きかったため令和3年度より高くなっている。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率について、減価償却費は減少したが、除却費が増加したため償却率が上昇している。
- ② 管渠老朽化率については、耐用年数に達した管がないため0%となっている。
- ③ 管渠改善率については、管渠の修繕に関する事業量がなかったため、令和3年度に比べ減少している。

全体総括

○ 企業債元金償還に充てた他会計補助金の収益化を始める等、経営の改善に取り組んでいるが、経常比率や、累積欠損比率を改善させるためには、人口減少等により料金の収入について減少傾向にあるため料金改定の検討が必要である。
○ 現在整備中の事業であるが、人口減少地区となっているため、将来的な状況を見据えながら投資の規模等について検討していく必要がある。
○ 長寿命化計画に基づき更新工事を随時行っているが、資金が少ないため、予防保全が行えずに壊れてからしか対応できない機器が一定数みられる。急に訪れる可能性がある、大きな修繕に備え内部留保の確保も必要となる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。